

「1年4ヶ月後に東北被災地を訪問して感じたこと」

田川支部 田川県土整備事務所 林 理

1. はじめに

平成24年7月4日～5日、仙台市において第582回全建講習会が開催され参加してきました。講習会の内容としては、最近ではめっきり減った震災関連報道を思い起こさせる内容からその後の取り組みなどを紹介されました。

どうしても被災地（特に三陸沖）を自分の目で確認したいという気持ちから2日間の講習会を終え、現地視察をしてきたのでその一部を報告します。

2. 現地視察

東日本大震災から1年4ヶ月が経過し、空港から全建講習会場へのアクセスは全く問題ありませんでしたが、遠方に行こうと思うと鉄道も未だ不通区間が多く代行バスが運転されているものの移動には少なからず不便を感じました。



(写真①) 仙台市近郊の路線図

以下に視察した箇所の写真とそこでの印象などを述べます。

2-1. 女川町

塩竈市から2時間程度でしょうか、女川町を訪れて最初に思った事は、・・・表現出来ない衝撃でした。

全く何も無いのです。とてもあり得ない光景です。1年4ヶ月前にはそこに町があり人々が生活していたコミュニティがあったはずなのです。写真②左の建物の1階部分まで津波が押し寄せたそうです。また付近には残されたままの建物や山積みされたがれきや復興後のイメージパースが掲示されていました。



(写真②) 女川町全景



(写真③④) 残されたままの建物と山積みされたがれき

さらに衝撃的だったのは、野球場内に公営住宅が建設されていたり、陸上競技場無内に建設予定の公営住宅のための地質調査が行われていたことでした。これらは、高台にありある程度の面積が確保できる箇所として選定されたのでしょうか。



(写真⑤) 復興後のイメージパース



(写真⑥⑦) 野球場内の公営住宅と公営住宅建設のため地質調査中の陸上競技場



(写真⑧) 災害復旧中の鉄道

左の写真は鉄道の不通区間で災害復旧状況です。

2-2. 石巻市

石巻市は、漫画家の石森章太郎の出身地ということで、駅周辺はそれにちなんだ道路名や像が設置されていました。

ただ、郊外の高校では、時計は被災した時間を示したままの状態でのそのグラウンドは未だにがれきが山積みされた状態でした。これらが北九州市に搬送されて処分されるのでしょうか？



(写真⑨) 市内マップ



(写真⑩⑪) ゴレンジャーと仮面ライダーの像



(写真⑫⑬) 止まったままの時計と校内グラウンドに山積みされたがれき

2-3. 松島町

日本三景松島で有名ですが、その美しさはやはり現地を訪れないと分からないでしょう。見る位置によって景色が随分変わります。七ヶ浜町の多聞山からの景色を紹介します。海岸沿いで比較的津波被害が少なかったようですが、それはこれらの島々が大津波から守

ってくれたとも言われているそうです。

ただ、防波堤は被災していたり、地盤沈下のためレストランが営業を中止していたり、観光客が訪れない道路は封鎖されたままの状態でした。



(写真⑭⑮) 多聞山(松島四大観の偉観)からの風景と被災した防波堤



(写真⑯⑰) 津波による潮位を記した建物と地盤沈下して冠水したままの道路



(写真⑱⑲) 封鎖されたままの道路

2-4. 七ヶ浜町

七ヶ浜町は松島湾の南側の半島に位置しています。今回の東北訪問の目的の一つにボラ

ンティアに参加することもありました。七ヶ浜町は南や東の海岸線は夏場は海水浴場として親しまれていたそうですが、今回の大津波で背後地の畑も含め町内の大半が浸水したところでした。

災害から時間が経過してボランティアとして出来ることのほとんどは、地元に着した方々への心のケアですが、それでも海岸や畑に堆積した細かいがれきは人力でないと撤去できないためまだまだ人手を必要としています。

上の写真の薄く赤で着色した箇所が浸水した箇所です。



(写真 20) 浸水マップ



(写真 21・22) 全国から集まったボランティア



(写真 23・24) 訪れたボランティアの寄書きと当日の作業工程

詳しくは下記のホームページを参照して下さい。

『七ヶ浜復興支援ボランティアセンター』 <http://msv3151.c-bosai.jp/index.php?gid=11044>

なお、下記は農地の作業状況です。最初は圃場整備かと思ったのですが、工事看板をよく見ると「除塩工事」とありました。元の状態を取り戻すにはまだ時間がかかるのかもしれ

ません。



(写真 25・26) 農地の除塩工事の風景①



(写真 27・28) 農地の除塩工事の風景②

大津波がもたらした様々な堆積物やそれによって破壊された建造物を撤去しないことには復旧は、始めることは出来ません。やはりここにも山積みされたがれきがありました。



(写真 29・30) サッカー場の横に山積みされたがれき (それぞれ別の場所です)

2-5. 塩釜市

塩釜市は、単位面積当たりの寿司屋の店舗数が日本一だそうです。市内には塩釜水産物

仲卸市場や松島の観光船の発着港にもなっており観光客も多数訪れています。それでも市内をよく見ると被災した護岸や仮設住宅を見ることが出来ます。



(写真 31) 塩釜水産物仲卸市場



(写真 32・33) 復旧工事中の護岸とその対岸にある仮設住宅

3. 最後に

東日本大震災で被災した箇所は、大津波が押し寄せた海岸沿がほとんどなのかもしれません。仙台の奥座敷と呼ばれる秋保温泉は仙台から南へバスで 1 時間程ですがとても趣のある癒しの空間がありました。

時間が経てば、段々人々の心から震災に関する事も思い出す機会が減るのは当然だと思います。



(写真 34) 秋保温泉

また被災地を訪れても都市部や地方部でも駅周辺はそれを感じる事が無いと思います。是非散歩がてら足を伸ばして地元の方々の生活を感じてほしいと思います。

ちなみに私は、趣味のジョギングをしながら視察を行いました。